



【上段写真提供】研究者名：山内太郎（伊藤早織、萩野泉）、山田康弘

## プログラム

- 13:00-13:05** 河合香史(東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所)  
挨拶
- 13:05-13:20** 五十嵐由里子(日本大学)  
趣旨説明
- 13:20-13:40** デイビッド・スプレイグ(農業・食品産業技術総合研究機構)  
霊長類のライフストーリー
- 13:40-14:00** 山田康弘(東京都立大学)  
縄文人のライフストーリー
- 14:00-14:20** 松本卓也(信州大学)  
チンパンジーの離乳とヒトのチャイルド期について：生活史の種間比較はどのように可能か？
- 14:20-14:40** 山内太郎(北海道大学)  
狩猟採集民の子どもはどのようにして大人になるのか：育児協働と子どもの狩猟採集活動
- 15:00-15:20** 西江仁徳(京都大学/日本学術振興会)  
チンパンジーは<死ぬ>のか：チンパンジー死生学再考
- 15:20-15:40** 山田康弘(東京都立大学)  
縄文人の死生観
- 15:40-15:55** 内堀基光(放送大学/一橋大学 名誉教授)  
コメント：死者の誕生について(現生人類と現代人)
- 15:55-16:10** 五十嵐由里子(日本大学)  
コメント：先史人類の出産育児
- 16:10-16:25** 西井涼子(東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所)  
コメント：現代タイにおける死生観
- 16:45-18:00** 司会・五十嵐由里子(日本大学)  
総合討論

公開シンポジウム

# ライフストーリー！ サルとヒトの誕生・成長・死



2022年  
**10月30日** 日  
13:00 - 18:00

東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所  
オンライン開催

参加ご希望の方は下記のメールアドレスにお問合せください。

【問い合わせ先】  
プロジェクト事務局  
〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1  
東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所  
科学研究費補助金基盤研究(S)社会性の起原と進化：人類学と霊長類学の協働に基づく人類進化理論の新開拓  
e-mail : sociality.oe@gmail.com  
web : https://sociality.aa-ken.jp/

【下段左側写真】 Common chimpanzee or robust chimpanzee (Pan troglodytes) skeleton at the Cambridge University Museum of Zoology, England.

【下段写真提供】研究者名：西江仁徳、松本卓也



公開シンポジウム

# ライフヒストリー： サルとヒトの誕生・成長・死

2022年

10月30日 13:00 - 18:00

東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 オンライン開催

科研費プロジェクト「社会性の起原と進化：人類学と霊長類学の協働に基づく人類進化理論の新開拓」では、このたび考古学がご専門の山田康弘さんをゲストにお招きして「ライフヒストリー」をテーマにしたシンポジウムを企画しました。山田康弘さんは主に縄文時代・弥生時代を対象に研究をなさっています。特に墓地における考古遺物や人骨の分析を行い、そこから当時の社会構造や人々の生活やライフヒストリーを復元し、さらに精神文化の考察をなさっています。本シンポジウムでは、霊長類学、生態人類学、文化人類学、そして考古学の視点から、ライフヒストリーを考え、比較検討を行います。具体的な討論テーマとして、1. ライフヒストリー、2. 成長育児、3. 死生観の三つを設定しました。ライフヒストリーとライフイベントについて、霊長類、先史人類、現生人類それぞれの特徴や共通点を洗い出し、それによって、ライフヒストリーとライフイベントを進化史的に考察し、さらには社会性の考察を深めることを目的とします。

**デイビッド・スプレイグ** (農業・食品産業技術総合研究機構)

「霊長類のライフヒストリー」

他の類人猿と比べて高いとされるヒトの子育てコスト。そのコストにもかかわらず出産間隔が短く子供が多いヒトの生活史はどのように成立するのか、狩猟採集民の研究をもとに人類学者は生活史理論を検証しようとする。

**山田康弘** (東京都立大学)

「縄文人のライフヒストリー」

縄文時代においては男性と女性、大人と子供が、墓制上それぞれ異なった葬法を採っていたことがわかっている。これらの点を踏まえて、今回は考古学・人類学的観点から縄文人のライフヒストリーについて考えてみたい。

**松本卓也** (信州大学)

「チンパンジーの離乳とヒトのチャイルド期について：生活史の種間比較はどのように可能か？」

タンザニア連合共和国のマハレ山塊国立公園に生息する野生チンパンジーの研究を中心に、幼年個体の採食行動に関する知見を紹介し、ヒト特有の発達段階とされるチャイルド期の捉え方について再考する。

**山内太郎** (北海道大学)

「狩猟採集民の子どもはどのようにして大人になるのか：育児協働と子どもの狩猟採集活動」

人間のライフサイクルにおける乳児期、子ども期、思春期に着目し、アフリカ熱帯林に暮らすピグミー系狩猟採集民の育児の特徴を描き出す。また、子どもと森の関わりについて、食物獲得活動の視座から考察する。

**西江仁徳** (京都大学/日本学術振興会)

「チンパンジーは<死ぬ>のか：チンパンジー死生学再考」

チンパンジーを含む非ヒト動物の「死生学」の研究動向を概観した上で、チンパンジー社会における死のあり方について、いくつかの事例を元に考察する。

**山田康弘** (東京都立大学)

「縄文人の死生観」

縄文時代の墓制を概観すると、当時の死生観として「再生・循環」という死生観と、祖霊祭祀に通じる「系譜的死生観」の二つが存在したと想定できる。今回、具体的事例を挙げながらこれらについて検討してみたい。

参加ご希望の方は下記のメールアドレスにお問合せください。

[問い合わせ先]

プロジェクト事務局

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

科学研究費補助金基盤研究(S)社会性の起原と進化：人類学と霊長類学の協働に基づく人類進化理論の新開拓

e-mail: sociality.oe@gmail.com

web: <https://sociality.aa-ken.jp/>

